

②B—25 被服工作の時間分析
(大裁女物衿長着について)

奈良女子大 水梨サワ子
和歌山大 ○大森富美子
奈良学芸大 中谷 和

1. Time Study の研究は家政学の分野でも広範囲に活用されてきているが、被服構成面においてははまだ十分に適用されていないようである。それで私達は、既報の紳士服・単衣長着に関する作業分析に引続き同様の目的のもとに衿長着の作業分析を行ない、被服工作を数量的に把握することによって被服工作実習の合理化を計り、指導と生産両面の能率向上の一助にしたいと考えた。

2. 単衣長着の簡単なものから、やや複雑な大裁女物衿長着をとりあげ、被験者は奈良女子大学被服科4回生15名とし、所定の観測用具により1962～1963年にわたって観測した。作業要素は単衣長着と全く同様で11項目である。

3. (1) 作業時間要素別割合は、既報の単衣長着における「紬ける」「縫う」が総時間の70%以上だったのに比べ30%減じた40%になっている。これは衿長着の場合紬ける部分が少ないからで、依然として縫う時間は他の要素より遙かに%が高く、ついで「待針打ち」に時間がかかるという結果が出た。

(2) 作業要素度数・部位別作業要素時間・その他姿勢別時間・度数等はほぼ単衣長着と同等な成果が得られた。